

## 第3部

---

## 基本構想

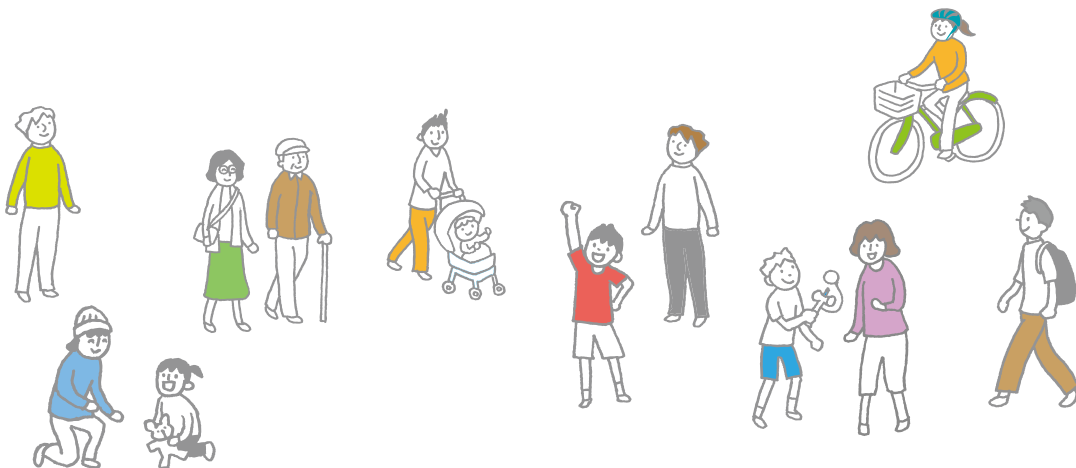
本計画全体に浸透させるまちづくりの理念を「市民一人ひとりがともに幸せに暮らせるまちづくり」とし、すべての市民が日々の暮らしに幸せを感じ、明日に希望を持つことができるまちづくりを進めます。

## 市民一人ひとりがともに 幸せに暮らせるまちづくり

価値観が多様化し、社会情勢が大きく変化する現在において、市民一人ひとりが自分らしく幸福な生活を送るためには、心身の健康と社会的環境が整い、地域内外で広範囲につながり、支え合い、それぞれが持てる力を存分に発揮し活躍できるまちをつくることが重要です。

「市民一人ひとりがともに幸せに暮らせるまちづくり」を基本理念に、現在、そして将来の市民が、いつまでも住み続けたい、住んでみたい、まちを目指します。

また、すべての人々の人権が互いに尊重される平和な社会を実現するため、「平和の希求」と「人権の尊重」を普遍的な理念として位置づけます。

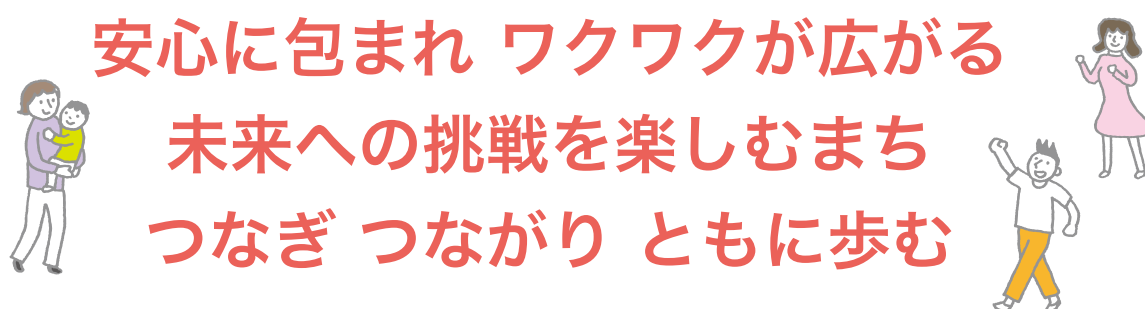


## 02

## まちの将来像

## 1 将来像

本計画の推進によって2035(令和17)年度に目指すまちの姿です。



### ■ 安心に包まれ ワクワクが広がる

「安心」は、市民が心身ともに健康で安全に快適な生活を送ることができる優しさに満ちた「安心感のあるまち」をイメージし、安心や安らぎを感じる状態を「包まれ」で表現しています。

「ワクワク」は、誰もが未来に向かって「ワクワク」し、これからの暮らしに希望を持てるまちの姿をイメージし、希望が心の中でどんどん大きくなり、みんなにもその感情が伝わる様子を「広がる」で表現しています。

二つの要素が調和し、「安心」をベースに、毎日を「ワクワク」、明日は今日よりもっと良くなるという希望を持った暮らしを送ることができるまちを目指します。

### ■ 未来への挑戦を楽しむまち

現在は、未来を見通すことが難しい時代と言われています。その一方で様々な技術革新や新しい価値観の台頭など、見方を変えれば可能性は無限にあります。こうした可能性を活かし、これまで先人から受け継いできたこのまちを未来へつなぐための、果敢な挑戦をまち全体で行っていきます。

また、挑戦の主体は、行政、企業、市民など様々考えられますが、それぞれが挑戦を楽しむとともに、それぞれの挑戦を応援し合う風土を醸成していきたいという思いを「楽しむ」に込めています。

### ■ つなぎ つながり とともに歩む

これからのまちづくり(未来への挑戦)は、それぞれの主体が単独で取り組んでいては、様々な要素が複合した課題の解決は困難です。長い歴史に育まれた文化や豊かな自然をつなぎ、廿日市市に関わりのある様々な人がつながり、互いに支え合いながら、ともに未来への挑戦に取り組んでいくという思いを込めています。

## 2 将来像の実現に向け、大切にしている考え方

将来像の実現に向けて、4つの「大切にしている考え方」を設定しました。

この考え方は、本市の特性や本市を取り巻く社会潮流、市民の意見を踏まえて、導き出したものであり、すべての施策分野に共通する重要な視点です。

### ① 社会変化に対応した持続可能なまちづくり

人口減少・少子高齢化や、気候変動問題など、社会情勢が変化する中であっても、希望ある未来を次世代へつなぐために、あらゆる分野において長期的な視点を持ち、自然環境と社会・経済の健全なバランスを保ちながら、持続可能性を重視したまちづくりに取り組みます。

### ② 安全・安心な暮らしの確保

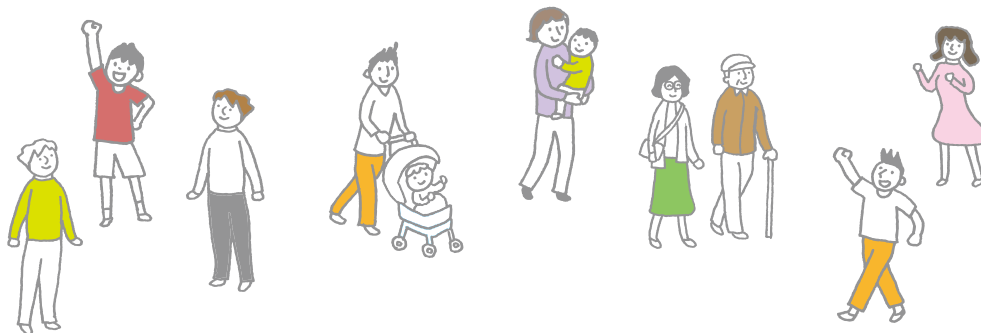
まちづくりの根底にあるのは、市民が安全に安心して暮らせる環境です。市民の暮らしを守る体制を整え、快適に生活できる社会基盤を整備し、誰もが住みやすいまちづくりに取り組みます。

### ③ 多様性と包摂性のある地域社会の実現

性別、年齢、国籍、障がいの有無等にかかわらず、すべての市民が他者との違いを受け入れ、個性を尊重し合い、自分自身の可能性を最大限に発揮できるまちづくりに取り組みます。

### ④ 多様な主体によるまちづくり

市民、団体、企業、地域、行政など、多様な主体がそれぞれの立場を理解し、強みや個性を活かしながら、ともに支え合い、地域の課題解決に向けて協力、挑戦できるまちづくりに取り組みます。



### 3 地域幸福度(Well-Being)指標

基本理念及び将来像の実現に近づいているかを確認するため、「地域幸福度(Well-Being)指標」を注視していきます。

#### ① ウェルビーイング(Well-Being)とは

「ウェルビーイング」とは、世界保健機関(WHO)の憲章で提唱された言葉で、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」を指し、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念です。特に先進国においては、これまでの経済的な豊かさだけでなく、生活の質や心の豊かさを重視する考え方への転換が進んでいます。

#### ② ウェルビーイングとまちづくり

価値観が多様化し、社会情勢が大きく変化する中、市民一人ひとりが幸福な生活を送るためには、「ウェルビーイング」の向上を推進する必要があります。

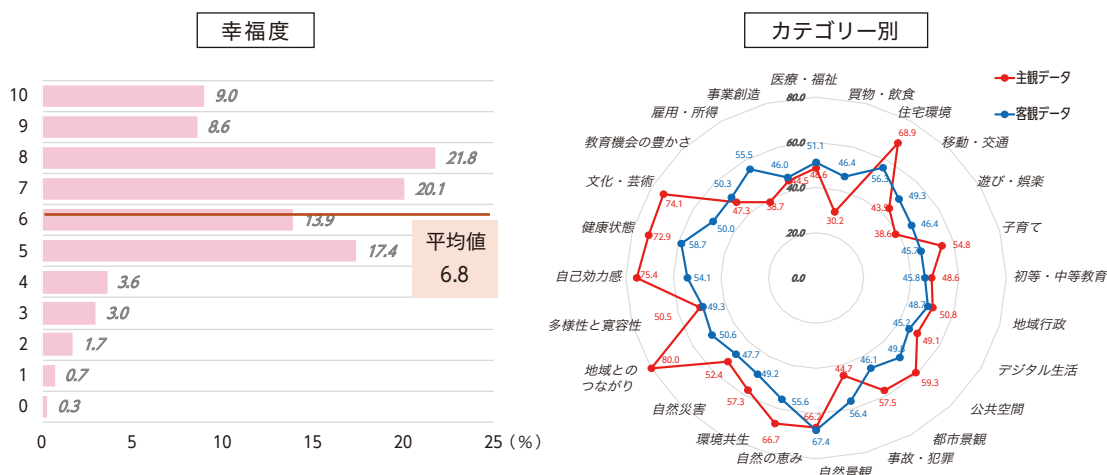
本計画の基本理念及び将来像の実現に向けて、「地域幸福度(Well-Being)指標」を定期的を確認しながら、市民が幸福を実感できるまちづくりに取り組みます。

#### ③ 地域幸福度(Well-Being)指標とは

地域幸福度(Well-Being)指標は、客観指標と主観指標のデータを活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を指標で数値化・可視化したものです。

#### ④ 本市の地域幸福度(Well-Being)

2025(令和7)年に実施したアンケートでは、現在の暮らしの幸福度は、6.8となっており、広島県平均(6.5)と比較しても高い数値となっています。



出典：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート  
「地域幸福度(Well-Being)指標」

本市が目指す将来像を実現するため、4つの「大切に考える考え方」や各分野の目指す姿を踏まえ、土地利用の基本方向と都市構造の構築について、次のように推進します。

## 1 土地利用の基本方向

本市は、西中国山地の山間部から内陸部、沿岸部、瀬戸内海の島しょ部に至るまで、変化に富んだ地形と豊かな自然環境に恵まれており、多様な地域特性を有しています。こうした地域特性を踏まえつつ、変化する社会情勢に対応し、将来にわたって地域の魅力と活力を高めていくため、次の基本的な考え方に基づき、総合的で計画的な土地利用を推進します。

### ①多様な地域特性を活かし、次世代へつなぐ土地利用

自然環境、歴史・風土、文化など、各地域の特性を活かしつつ、それらの価値を次世代へつなぐため、保全と活用の調和の取れた土地利用を推進します。

### ②将来を見据えた土地利用

人口減少・少子高齢化など、社会情勢が変化する中であっても、長期的な視点を持ち、自然環境と社会・経済とのバランスを保ちながら、拠点とそれを形成する各種機能の集積による持続可能性を重視した土地利用を推進します。

### ③それぞれの地域がつながる土地利用

山間部、内陸部、沿岸部、島しょ部といった各地域の特性を、多様な主体が活かしながら、相互に連携し支え合い、全市域の一体的かつ持続的な発展を図る土地利用を推進します。

### ④安全・安心に暮らせる土地利用

激甚化・頻発化する自然災害に備えるとともに、快適に生活できる社会基盤を整備し、誰もが安全・安心に暮らせる居住環境を確保した土地利用を推進します。

## 2 都市構造の構築

本市の特性に応じたまちづくりを推進するために各地域の特性に応じたゾーニングを行い、それらを活かした発展を目指すとともに、拠点とそれを形成する各種機能の集積を図ります。

さらに、拠点やその周辺地区をつなぐ「交流軸」を設定することで、各ゾーンや拠点が相互に連携し、その機能を発揮できるような都市構造を構築します。

### ① 特性を活かしたゾーン形成方針

将来像を実現するために、各ゾーンの特性を活かして、市内はもとより、市外からのヒト・モノ・コトにより地域が交流するまちづくりを進めます。

#### 人とまちの 交流ゾーン

人とまちの交流ゾーンは、主に沿岸部を対象とし、都市機能の集積により人と人が交流し、にぎわいが創出されています。

また、鉄道等や高速道路により利便性が高く、都市居住の場として魅力があるほか、物流環境の良さから製造業やサービス業が集積しています。

今後も、都市機能の高度化や多様な機能の集積により、中心地としての利便性と魅力の向上を図りつつ、その効果を市域全域に波及させていきます。

#### 世界遺産 交流ゾーン

世界遺産交流ゾーンは、宮島及び宮島口周辺を対象とし、国際的な観光・交流機能を持っています。

宮島では、「全島博物館：厳島」を目標とする将来の姿とし、自然、文化、歴史を保存活用し100年先を視野に入れたまちづくりを推進しています。

宮島口では、「世界遺産・宮島の玄関口」として国内外から多くの観光客が訪れることから、そのニーズを捉えた環境整備や観光施策の実施、市内各地域の人や資源を交流により広く情報発信しています。

今後も、宮島の自然、文化、歴史の保存活用や、宮島口の環境整備等を進め、多様な主体とともに取り組むなど、特色を活かした施策を実施します。

#### 水と緑の 交流ゾーン

水と緑の交流ゾーンは、内陸部を対象とし、豊かな自然、スポーツ施設を活かしたレクリエーションと癒しの場と位置づけます。都市との近接性を有し、キャンプ場、スポーツ施設等を利用したアウトドア体験が気軽にできます。

今後も、川や緑などの豊かな自然環境や農産物などの地域資源との交流機能の充実を図ります。

#### 森と文化の 交流ゾーン

森と文化の交流ゾーンは、吉和地域を中心とする西中国山地の山間部を対象とし、森林資源を活かした文化、スポーツ、レクリエーションの場と位置づけます。

森林公園やスキー場、美術館、保養施設などがあり多様な魅力を満喫でき、また、盛夏にあっても過ごしやすいリゾート地です。

今後も、多様な魅力と特色ある農林業の振興や自然環境の保全を推進するとともに、広域的な交通ネットワークなども活用し、交流機能の充実を図ります。

## ②都市を構成する主要機能の配置・形成方針

本市の特性を踏まえ「都市、地域、地区拠点、小さな拠点、新都市活力創出、観光交流、工業・流通、商業・住居」の8つの主要機能を設定し、各機能がその役割を十分に発揮することで、持続可能で交流が盛んな活力あるまちを目指します。

また、この主要機能を配置するエリアを「拠点」とし、拠点の周辺エリアをそれぞれの特性に応じた機能の集積を高めていく「拠点エリア」と設定します。

### 都市機能

国・県などの広域行政機能や広域商圏を持つ商業機能などの高次な機能をはじめ、情報、文化・芸術、福祉、商業、医療などの都市活動を支える主要な機能(都市機能)が集積する市役所周辺(シビックコア地区)を都市拠点とします。

また、公共交通機関で連結する都市拠点の周辺エリア(JR廿日市駅～市役所～JR宮内串戸駅～JA広島総合病院周辺)を都市拠点エリアと位置づけ、交通結節機能の強化や中核的な医療機能の維持・増進などにより、都市の魅力や利便性の向上を図り、都市拠点と合わせて、本市の中心地としてふさわしい機能を適正かつ集中的に配置・整備します。

### 地域機能

市役所及び各支所を地域拠点とし、拠点周辺の生活サービス機能やまちづくり機能を提供するエリアを地域拠点エリアと位置づけ、ヒト・モノ・コトが交流するまちづくりの拠点エリアとなるよう環境整備を進めます。

また、地域拠点と分散する基礎的な生活圏を移動手段で結ぶなど、地域の実情に適した地域運営を持続可能なものにする取組を行います。

### 地区拠点 機能

交通結節点から徒歩圏域のエリアを地区拠点エリアと位置づけ、地域拠点を補う機能の誘導を図ります。

### 小さな拠点 機能

中山間部の主要集落を小さな拠点エリアと位置づけ、地域での暮らしが継続できるように、生活利便機能の維持確保を図ります。

### 新都市 活力創出 機能

新たな活力を創出し都市の発展を牽引する平良丘陵地区、木材港地区及び未来物流産業団地地区を新都市活力創出拠点エリアと位置づけます。

平良丘陵地区は、新たな活力創出の可能性を秘めた地区であり、新機能都市開発事業を推進し、木材港地区は、既存の産業集積を踏まえ、時代や環境に即した土地利用の誘導など、再編整備を進めます。

また、未来物流産業団地地区では、平良丘陵地区とともに、新たな産業用地を整備し、既成市街地の住工混在解消と高度利用によるコンパクトシティの推進を図るとともに、市内外企業の留置・誘致による雇用確保と定住促進・人口流出の抑制、地域経済の活性化を図ります。

### 観光交流 機能

宮島は世界的な観光地であることから、本市全体の魅力を国内外に発信するとともに、人や資源の交流を推進し、活力を高める厳島港(胡町地区、宮島口地区)の港湾施設周辺を観光交流拠点エリアと位置づけます。

今後、宮島の玄関口である宮島口地区の環境整備の推進により、さらに機能を向上させ、市域全体の回遊性や活性化について一層の促進を図ります。

### 工業・流通 機能

既存の工業団地の産業機能を維持するとともに、新たな企業立地の受け皿として、廿日市インターチェンジ周辺など交通アクセスに恵まれたエリアを工業・流通エリアと位置づけます。

市街地内の住工混在を解消しつつ、周辺環境に配慮した土地利用を適切に誘導します。

### 商業・住居 機能

鉄道駅に近接するなど立地条件に恵まれ、新たに人が交流する可能性を持ったエリアを商業・住居エリアと位置づけます。

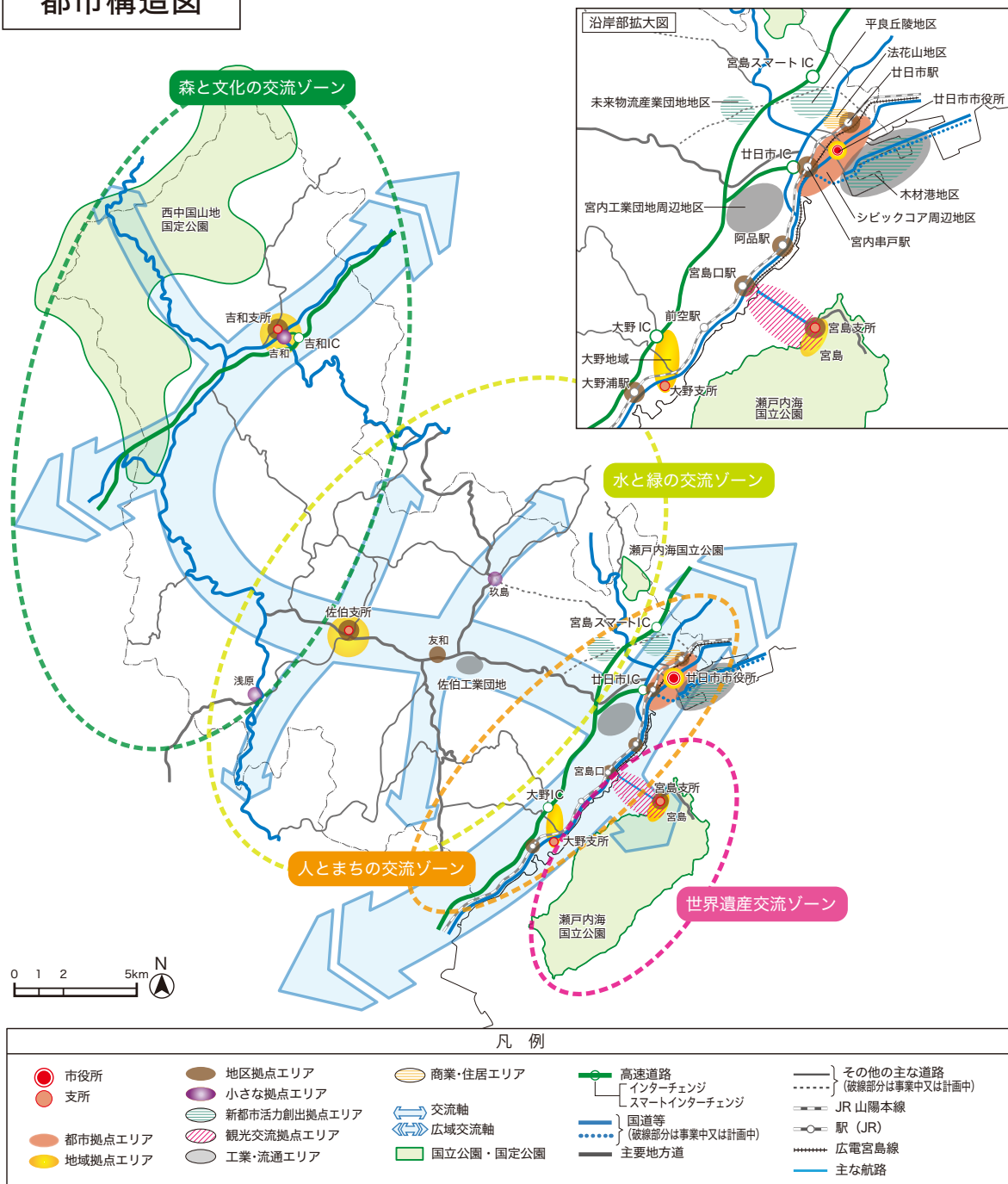
高いポテンシャルを活かした適切な開発を誘導し、都市機能の充実と併せて市街地の集約化を図ります。

### ③ヒト・モノ・コトと地域をつなぐ交流軸の形成方針

各ゾーンや拠点がその機能を充分発揮し優れた資源を有効に活用するため、ゾーンや拠点をつなぐ「交流軸」を設定しました。これらが相互に連携し交流することで、相乗効果を生み、効率的で高い機能性と快適性を備えた活力あるまちを目指します。

また、鉄道等の公共交通機関や高速道路など、交通環境による利便性を活かし、広域的な視点によるまちづくりを進めるため「広域交流軸」を設定し、近隣の都市はもとより県内外に広くつながることで、更なる交流・連携を推進します。

都市構造図



## 04

## 施策の方向性

将来像の実現に向けた方向性を整理し、8つの施策分野と各分野の2035(令和17)年度のまちの姿を設定しました。これらの実現に向けて、基本計画で施策を体系化し、取組を推進します。

## 基本理念

市民一人ひとりがともに幸せに暮らせるまちづくり

## まちの将来像

安心に包まれ ワクワクが広がる 未来への挑戦を楽しむまち  
つなぎ つながりとともに歩む

## 将来像の実現に向け、大切に考える考え方

- ① 社会変化に対応した持続可能なまちづくり
- ② 安全・安心な暮らしの確保
- ③ 多様性と包摂性のある地域社会の実現
- ④ 多様な主体によるまちづくり

## 将来のまちの姿と施策分野

## 1 こども・子育て・教育

みんなで子育てを支え、  
こどもや若者の成長に喜びを感じられるまち  
こどもが心身ともに健やかに成長し、自らの  
可能性を信じてチャレンジ・自己実現できるまち

## 2 健康・福祉

つながり、支え合い、笑顔で暮らせるまち

## 3 安全・安心

誰もが安全に、安心して過ごせるまち

## 4 産業

「はつかいちらしさ」を活かし、  
地域経済の好循環により発展するまち

## 5 生涯学習・スポーツ・文化

生涯にわたって自分らしく  
心豊かに暮らせるまち  
歴史や伝統文化を守り、活かし、伝えるまち

## 6 都市基盤

都市機能が充実し、  
安全・安心で快適に暮らせるまち

## 7 環境

自然と社会が共生できるまち

## 8 地域づくり・人権・多文化共生

誰もが学び、つながり、活躍することで、  
地域らしさをともに守り創れるまち  
誰もが他者との違いを認め合い、  
安心して暮らせるまち

## 1 こども・子育て・教育

## 2035年度のまちの姿

## みんなで子育てを支え、こどもや若者の成長に喜びを感じられるまち

- こども・若者が幸せに育っています。
- 保護者が子育てに伴う喜びを感じています。

## こどもが心身ともに健やかに成長し、自らの可能性を信じてチャレンジ・自己実現できるまち

- こどもが自らの可能性を信じて未来に向けて挑戦しています。

こどもを中心にまち全体に笑顔が広がっており、地域や事業者など多様な主体で子育てを支えています。また、妊娠期から子育て期まで、すべてのこどもと保護者が切れ目なく必要な子育てサービスを受けることができ、安心して子育てができる環境の中でこどもが希望を持って健やかに成長しています。加えて、こどもや若者が安心して意見を伝える多様な機会が確保され、その声が反映された施策やまちづくりが進められています。そして、多くの若者が自分の将来を明るく見通しています。

学校教育においては、地域全体でこどもの学びに関わり、一人ひとりの良さや可能性を伸ばしつつ、人生を切り拓いていくために必要な「生きる力」を育んでいます。その上で、こどもは多様性を認め合いながら他者と協働し、みんなが安心して暮らせる社会の創り手として成長しています。

これらを通じて、こどもが「ふるさと廿日市」に対する愛着と誇りを持ち、急激に変化する時代においても、廿日市で培った知識や経験を活かしつつ、心も身体も満たされた状態で健やかに暮らしています。

## 市民の声



## 【子育て】

- ・廿日市市は、**子育てしやすいまち**というイメージが市民に定着しています。
- ・これからも子育て世帯を「**地域全体でサポートするまちづくり**を進めてほしい」という声が多くあります。

## 【教育】

- ・学生世代からは、「**”はつかいち”らしさを活かした教育プログラムや地域と連携した学びを通じて、多様な能力が求められる今後の社会で活躍できる力を身につけたい**」という声がありました。

## モニタリング指標

指標	現況値	方向性
普段の生活の中で幸せな気持ちになっているこどもの割合	(未就学児) 90.3% (小学6年生) 95.0% (中学3年生) 88.7%	↗
子育てに伴う喜びを感じている保護者の割合	84.0%	↗
将来の夢や目標は、かなうと思う児童生徒の割合	75.8%	↗
努力すれば、自分もたいていのことはできると思う児童生徒の割合	88.6%	↗

## 2 健康・福祉

## 2035年度のまちの姿

## つながり、支え合い、笑顔で暮らせるまち

- －個人の意思が尊重され、住み慣れた地域で支え合いながら安心して暮らしています。
- －市民が健康でいきいきと自立した生活ができています。

日常生活の中で、自然な見守りや声かけ、交流により、人と人とのつながりが育まれ、地域の多様な主体(行政、医療機関、企業、NPO、市民団体等)が連携し、年齢や経済状況、障がいのありなしなどにかかわらず、様々な人々がともに支え合っています。

そして、すべての市民が地域の一員として尊重され、安心して笑顔で暮らすことのできる社会が実現しています。

また、市民一人ひとりが、健康を意識し、運動や食事に気を配ることが日常の一部となり、ライフステージに応じた健康づくりに取り組んでいます。地域では、健康づくりにつながる活動が活発に行われています。

加えて、安心して医療や介護・福祉サービスを受けることができる体制が整っており、住み慣れた地域において安心して暮らすことができます。

## 市民の声



・健康・福祉に関する様々な関係団体の連携が進んでいることで、相談をワンストップで対応してもらえる便利で優しいまちです。

・国際化の進展など市民のニーズが多様化する中、どんな人でも安心して心身ともに健康に住める環境が求められています。

・これからも「住み慣れた」地域で暮らし続けるため、医療機関などの生活環境の充実や地域内のつながりを強めていきたいという声もあります。

	指標	現況値	方向性
モニタリング指標	地域の中に相談できる人がいる市民の割合	82.2% (令和6年度)	↗
	健康寿命 (日常生活動作が自立している期間(要介護2以上になるまでの期間)の平均)	男性81.4年 女性85.9年 (令和5年推定値)	↗
	普段、心身ともに健康だと思う市民の割合	71.0% (令和6年度)	↗

### 3 安全・安心

#### 2035年度のまちの姿

##### 誰もが安全に、安心して過ごせるまち

—市民の生命や財産が、災害や犯罪、交通事故等の脅威から守られています。

防災に関する啓発活動に取り組むことで、市民一人ひとりが災害を「自分のこと」として捉え、災害情報の収集や避難経路の確認、家庭内備蓄などの準備を行うとともに、災害時には自ら正しい避難行動をとるなど、災害に対する自助の意識が醸成されています。

そして、地域の自主防災組織では、防災に関する活動が積極的に実施され、災害時には声をかけ合い、助け合うまちになっています。

行政も、地域強靱化計画に基づき、行政機能や防災インフラの維持・整備を進め、大規模災害時に地域の経済活動が最大限維持される体制を確立しています。

また、防火・救命に関する市民の理解と意識が向上し、災害への安全対策や対応力が強化されているとともに、消防・救急体制の強化により、災害の規模や種別に応じた迅速な対応が可能となっています。

犯罪や交通事故防止に向けた啓発活動を関係機関と連携して推進し、市民の防犯や交通安全に対する意識が向上するとともに、歩道を安心して通行できる環境が整備されています。さらに、年代に応じた消費者啓発や相談体制の充実により、適切な選択・判断ができる力が身につき、誰もが安全で安心に暮らしています。

##### 市民の声



・安全・安心は、暮らしていくうえで一番大事なことだという市民が多くいます。  
・廿日市市は、大きな災害も少ない上に地域の防災体制も整っている**防災面が充実したまち**です。

・住民が多様化する中で、緊急時には、**国籍や宗教などに関わらず、安全に避難などができる体制づくりが必要だ**という声もあります。

##### モニタリング指標

指標	現況値	方向性
災害による死者数	0人 (令和6年度)	→
交通事故に対する不安がなく、安全に生活できている市民の割合	45.8%	↗
犯罪に対する不安がなく、安心して生活できている市民の割合	54.2%	↗

## 4 産業

## 2035年度のまちの姿

## 「はつかいちらしさ」を活かし、地域経済の好循環により発展するまち

- 地域資源を活かした域内循環の促進などにより、地域経済の持続的発展を支えています。
- 観光客、地域住民、地域経済、地域環境がより良い形で調和した、持続可能な観光地となっています。

広大な市域に多種多様な産業がある本市の強みや特色を活かし、産業連関の強化や産業基盤の整備などを推進することで、多様な事業活動が活発に行われ、地域経済に好循環が生まれています。

ダイバーシティ経営の推進により、多様な人材が活躍し安心して働きやすい職場が増えています。市内事業者は生産性向上等により経営基盤が安定した状態となっています。また、創業支援等により市内で創業する人が多く、産業が活発なまちとなっています。

農林水産業は、需要増加や担い手の育成、デジタル技術の活用が進み、魅力があり、働きがいのある職業として選択する人が増えています。森林や農地、漁場の持つ多面的な機能を活かした取組により、豊かな環境が保たれて、持続可能な形になっています。また、地産地消が進み、市内産品への愛着心や安心感が深まっています。

誰もが快適に楽しく旅行できる環境が整えられ、また、地域の観光資源の魅力を高め、戦略的なプロモーションを行うことで、観光客の滞在時間や消費が拡大しています。市民は観光を通じて地域への愛着や誇りを持ち、観光客は訪れる地域の自然や文化、歴史、暮らし、経済を尊重して観光を楽しむことで、市民生活と調和した持続可能な観光地となっています。

## 市民の声



・廿日市市は、世界遺産 厳島神社（宮島）に代表される観光地や特徴的な産業、豊かな自然、そして、大都市に隣接する立地など、**たくさんの可能性に満ちたまち**です。

・若者世代からは、学生と地元企業の接点を作り、学生と企業の交流が進むことで、学生は**就職先の選択肢が広がり、地元で働くことを意識するきっかけ**になるという声もあります。

モニタリング指標	指標	現況値	方向性
	市内産業経済活動に活気があると感じている市民の割合	33.5%	↗
	持続可能な観光地となっていると認識している市民の割合	27.4%	↗

## 5 生涯学習・スポーツ・文化

### 2035年度のまちの姿

#### 生涯にわたって自分らしく心豊かに暮らせるまち

ー学びやスポーツ・文化芸術を楽しむ環境が充実し、市民の誰もがいきいきと自分らしく暮らしています。

#### 歴史や伝統文化を守り、活かし、伝えるまち

ー市民が、市の歴史や伝統文化に誇りと愛着を持ち、次世代へ継承しています。

市民がともに学び、対話を重ねることを通じて、地域内に人と人のつながりが生まれるとともに、学んだことを地域社会に活かす市民が増えています。

スポーツや文化芸術に親しむことで、市民の健康づくりや生きがいにつながっています。また、活動を通じて仲間との交流が生まれ、いきいきと心豊かに暮らしを楽しんでいます。

市民が市の歴史や伝統文化に誇りや愛着を持ち、市外から訪れる人にもその価値を伝え、次世代に継承しています。宮島では、普遍的な価値を次世代に継承するため、住民や関連団体など多様な人々が活動し、伝統的な建物や暮らしの魅力を体感できる場や機会が提供されています。

#### 市民の声



#### 【文化】

- ・廿日市市は、**文化芸術に触れる機会がたくさんあるまち**です。
- ・**文化芸術が日常生活の一部**として溶け込み、気軽にイベントや展覧会へ足を運んでもらえるようなまちづくりが進んでほしいという声もあります。

#### 【伝統】

- ・「神楽」など魅力的で価値のある伝統文化がたくさんありますが、**後継者不足が深刻**です。担い手の育成などを進めて、これまで受け継がれてきた価値を**次世代へ繋いでいく**ことが求められています。

#### モニタリング指標

指標	現況値	方向性
日頃の生活に充実感を感じている市民の割合	55.7%	↗
市の歴史や伝統文化に誇りや愛着を持っている市民の割合	43.3%	↗

## 6 都市基盤

## 2035年度のまちの姿

## 都市機能が充実し、安全・安心で快適に暮らせるまち

—生活に必要な機能と住環境が整備され、市民が快適に暮らしています。

集約型都市構造の実現に向けて、市中心部や各地域の拠点では人々が集まり、にぎわいが創出されています。特に、シビックコア地区では、居心地が良くにぎわいと魅力ある都市拠点形成に向けたまちづくりが進められています。また、多様な主体との連携と協働により、持続可能な地域公共交通ネットワークが構築され、市民の身近な移動手段として生活を支えています。

地域を問わず、子育て世帯から高齢者世帯まで、すべての世帯に対して充実した住まいが提供されています。近年増加している空き家については、所有者の課題意識が高まり、放置されていた空き家が減少し、住宅ストックの循環が進んでいます。

身近に適切な緑化空間とオープンスペースが確保され、幅広い世代の市民に憩いの場や遊びの場として利用されることで、地域に愛される公園づくりが進んでいます。また、災害時には、避難空間や物資の集積地として活用できるように備えることができます。

都市間・地域間を結ぶ道路が計画的に整備され、利便性の高い道路環境が形成されています。これにより、誰もがスムーズに移動できるようになり、安全性・快適性の向上が図られています。

都市の浸水対策として、浸水常襲箇所での雨水対策が実施され、浸水の防除が図られています。また、公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全のため、公共下水道が計画的に整備されています。これにより、安全で快適な暮らしが支えられています。

## 市民の声



- ・一定の都市機能があり、**利便性の高いまち**です。
- ・一方で、色々な施設が点在していると不便なため、**コンパクトにまとまっていると嬉しい**という声もあります。

- ・市内の各施設をつなぐ**公共交通の利便性向上**も求められています。
- ・まちづくりを通じた景観の整備を求める声もあり、「**きれいなまち**」をキーワードに挙げる人も多くいます。

モニタリング指標	指標	現況値	方向性
	便利で快適なまちと感じている市民の割合	49.2%	↗
	道路の安全性、快適性が確保されていると感じている市民の割合	(安全性)33.0% (快適性)29.1%	↗

## 2035年度のまちの姿

## 自然と社会が共生できるまち

ー地域の自然資本が次世代に継承されています。

日常生活や事業活動において、環境への配慮や環境との調和を大切にする行動が主流となっています。

こうした中、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進により、温室効果ガスの排出が抑制され、ゼロカーボンシティの実現に近づいています。さらに、自然環境の価値は人々の暮らしを支えるかけがえのない基盤として認識され、豊かな自然環境の保全と生物多様性の維持が実現しています。

また、地域資源の効率的な活用やごみの発生抑制・資源化が進み、環境負荷の少ない、持続可能な循環型社会が構築されています。

このように、自然環境と社会・経済のバランスが保たれた、きれいで暮らしやすい持続可能なまちが形成され、地域の自然資本が次世代へと引き継がれています。

## 市民の声



- ・都市と自然の調和が取れたまちづくりが求められています。
- ・自然をみんなで守り育てていきたいという声もあります。
- ・身近な資源を活用することで市内の経済循環率向上にもつながります。

## モニタリング指標

指標	現況値	方向性
里地里山里海のような身近な自然環境が適切に管理・活用されていると思う市民の割合	30.9%	↗

## 8 地域づくり・人権・多文化共生

## 2035年度のまちの姿

誰もが学び、つながり、活躍することで、  
地域らしさをともに守り創れるまち

—幅広い世代と多様な主体が参画し、地域のニーズや課題を捉え、地域の特性を活かした持続可能なまちづくりが進んでいます。

## 誰もが他者との違いを認め合い、安心して暮らせるまち

—市民一人ひとりが多様性を理解し、自分らしく暮らしています。

多様化・複雑化する地域のニーズや課題、身近な困りごと等に対応するため、こどもから高齢者までの幅広い世代の住民が地域の活動に関心を持ち、参画しています。

また、人口減少や高齢化、地域社会の変容等が進む中でも、各種団体・事業者等の多様な主体が、地域自治組織や行政等と情報共有や対話を活発に行い、まちづくり活動の支え手として協働しながら活動に参画しています。

こうした幅広い世代や多様な主体が地域のまちづくり活動に参画することによって、地域の特性を活かした持続可能なまちづくりが進んでいます。

外国人住民と日本人住民がともに生活する中で、互いにやさしい日本語などを使ってコミュニケーションを図り、お互いの文化や習慣を理解する機会が増えています。これにより、市民の間に多文化共生の考え方が浸透しています。姉妹都市などの海外との交流や国際交流活動の発信などが活発に行われることで、外国語や海外文化に触れる機会が増え、国際交流活動に関心を持ち、参加する人が増えています。

性別や年齢、障がいのありなし、国籍などにかかわらず、誰もが地域社会の一員として互いに尊重し、認め合うまちづくりが進んでいます。また、一人ひとりが自らの希望に応じて、自分らしい働き方や生き方を実現し、いきいきと暮らしています。

## 市民の声



## 【地域づくり】

・地域づくり活動を通して、**地域を盛り上げ、これからも変わらぬ暮らしを続けていきたい**という声が多くあります。そのためにも、新たなことにチャレンジできる環境や機会の充実と、その学びが自発的な活動やまちづくり活動につながる仕組みの構築により、**新たな担い手づくりに取り組むことが必要**です。

## 【人権・多文化共生】

・グローバル化の進展や様々な社会変革を経て、廿日市市にも**多様な価値観を持つ人が増えてきた**と思う市民が多くいます。自分とは違う価値観の人であっても、**お互いに尊重し合い、認め合うことでみんなが住みやすいまちづくりにつながります。**

## モニタリング指標

指標	現況値	方向性
地域への誇りや愛着を持って、地域で暮らし続けたいと思う市民の割合	64.1% (令和6年度)	↗
他者との違いを認め、互いを尊重している市民の割合	41.3%	↗

# 06

## 基本構想の着実な推進

基本構想を実現するためには、多様な主体が連携・協力してまちづくりを進めるとともに、限られた資源を最大限に活用し、効率的かつ効果的な行政経営を実現していくことが不可欠です。

「協働によるまちづくり」と「効率的かつ効果的な行政経営」の両面から取組を進め、基本構想を着実に推進していきます。

### 1 協働によるまちづくり(地域経営の推進)

「廿日市市協働によるまちづくり基本条例」や、本計画における「将来像の実現に向け、大切に考える考え方」に基づき、市民、団体、企業、地域、行政など、本市のまちづくりに関わる多様な主体が互いに理解し、尊重し合い、それぞれの強みや個性を活かしながら、対等な立場で協力する「協働によるまちづくり」を進めていきます。

### 2 効率的かつ効果的な行政経営

基本構想の実現に向けては、「地域幸福度(Well-Being)指標」及び各分野の「モニタリング指標」を注視し、定期的に現状把握を行うとともに、本計画を中心に、施策の着実な推進、施策評価による効果検証、事務事業の改善や経営資源の適切な配分など、PDCAサイクルを確実に実行します。

